

みくさいな 金華山

金華山きんかざんは牡鹿半島沖の孤島で、古くから霊場として信仰を集めてきました。青森県の恐山、山形県の出羽三山と並んで、奥州三大霊場に数えられることもあります。金華山内の黄金山神社こがねやましんじやへの参拝はもちろん、三陸復興国立公園の自然に親しむフィールドとして、多くの人々が訪れます。

牡鹿半島の先端に位置する御番所公園からは、金華山瀬戸と呼ばれる海峡を挟んで、金華山の美しい三角形の稜線を、間近に楽しむことができます。水平線をバックに、まるで島自体が浮いているような不思議な風景は、この世とあの世の境界を感じさせるようでもあり、一度見たら忘れられない風景です。

金華山へ渡る玄関口である鮎川浜に伝わる民俗芸能「七福神舞」の一節「みくさいな、みくさいな、七福神をみくさいな」にちなみ、この展示では、金華山の古い歴史と独特な文化、そして自然と人間の深いつながりを紹介します。



歴史編

金華山の長～い歴史

みーさいな 金華山

こがね花咲く黄金伝説と聖地誕生

金華山は、文化庁から日本遺産「みちのくGOLD浪漫」に認定されています。「みちのくの金」は、天平時代の「奈良の大仏（東大寺盧舎那仏）」の完成に大きな役割を果たしました。これを受けて、金華山には鉱山の霊力を果たした。これを受けて、金華山には鉱山の霊力を司る金山毘古神と金山毘賣神が祀られ、その信仰は現在の金山神社へと受け継がれます。金華山への自然崇拜としての信仰はそれ以前からあったと考えられますが、「みちのくの金」の産金によって、広く知られる聖地となりました。

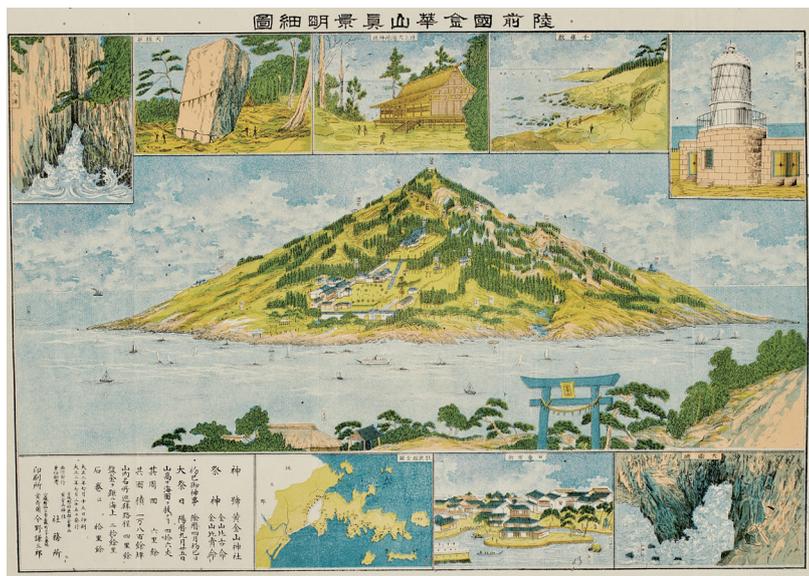
江戸時代には、万葉集で大伴家持が詠んだ和歌の一節「こがね花咲く」が、金華山と結び付けられました。実際には金を産出することはありませんでしたが、黄金伝説から信仰の聖地となり、現在でも正月や祭りの際には多くの参拝客が「金華山詣」に足を運びます。



御番所公園から望む金華山

仏教の修行の場から観光地へ

明治以前の金華山は神仏習合の聖地で、金華山大金寺として発展しました。平泉の藤原氏や北上川流域で勢力を強めた葛西氏など、時の権力者の奇進や保護を受け、修験者の修行の聖地として広く知られるようになっていったのです。また金華山は弁財天を守護神としたので、庶民にも弁財天信仰として広まり、漁民の信仰はもちろん、農村からも金華山詣という集団参拝が行われるようになりました。



「陸前國金華山真景明細図」1913(大正)2年発行



みーさいな 金華山

見て拝むか、渡って拝むか

金華山は、島そのものが神である神体島で、かつては女人禁制とされました。女性は牡鹿半島の先端にある一の鳥居から遙拝、つまり拝んで参拝したのです。これに対し、実際には上陸して島内の聖地に参拝することを登拝と言います。明治時代に入ると、廃仏毀釈の動きの中で黄金山神社となり、女人禁制も解かれ、徒歩で金華山を目指す「金華山道」が整備されました。

一の鳥居は現在、木々が生い茂って金華山を望むことができませんが、昭和初期から昭和中期までは、茶屋や休憩所もある観光地でした。牡鹿半島に自動車道のコバルトラインが開通し、石巻からの定期船も賑わった高度経済成長期には、鮎川浜の名物であるクジラと金華山詣のために、参拝客やレジャー客が一気に増え、現在のよ



一の鳥居へピクニック(奥は金華山) 撮影:鹿井清介

手漕ぎ船での山鳥の渡し

石巻から金華山道を使って徒歩で金華山詣が行われていたころ、多くの人は鮎川港のさらに先にある山鳥集落の波止場から、手漕ぎ船で金華山に渡りました。山鳥側で鐘をならすと、金華山から船がやってきて渡してくれ



む望を山同りよ渡雉山 山華金前陸

絵葉書「陸前金華山 山雉渡より同山を望む」



ご利益編 | 三年参れば、お金に困らない?!

みーさいな 金華山

弁財天のご利益

金華山はもとも神仏習合の聖地で、守り神として弁財天が祀られてきました。七福神で知られる弁財天は、もともヒンドゥー教の川の女神ですが、仏教に取り入れられて日本にも定着しました。

「巳(み)の日」は、財運をつかさどる弁財天の縁日とされています。この日に参れば、弁財天の遣いである巳(み)が願いを伝えてくれると言われています。初巳大祭は、毎年5月の初巳の日から一週間斎行される金華山の最大の祭りです。期間中の日曜日には神輿渡御が行われ、神輿は本殿を出発し、船着場のあたりにある御旅所まで降りて海水による海潮祓いを行い、再び本殿へと戻ります。また、12年に一度の「巳年の初巳大祭」は非常に盛大な祭りとなります。

金華山は「みちのくの金」のイメージから財運の信仰を集めています。その根底には弁財天信仰と、巳の日の縁日と初巳大祭における参詣と深く結びついています。



初巳大祭の神輿渡御

海藻で清める独特な神事

初巳大祭では、黄金山神社の神々が神輿で御旅所に向き、海の力を蓄えて本殿に戻ります。この御旅所で行われるのが金華山独特な海潮祓いです。これはまず、採潮場と呼ばれる磯に神官が降りていき、柄杓で海水をすくって樽に入れます。そして御旅所の神輿の前で神主が海藻を使って海水を神輿に振りかけます。

この時、参列した人々も海水でお祓いをしてもらいます。大自然の力を象徴する海水が、ケガレを清めるだけでなく力を与えるという意味も込められています。外洋に面した金華山に渡り、潮の香りを体に浴びること自体が、パワーを得るご利益と考えることもできます。



潮を汲み、海藻でお祓いをする